

目指す学校像

高き志【こころざし】

地域とともにある

勢いのある学校

No. 11 (R元. 6. 27発行) 文責 校長 福田雅也

「自尊心」と「他者意識」

「友だちがたくさんできたから、学校が楽しい」

これは、現在行われている、担任と児童一人一人との面談（教育相談）で、1年生のある児童が担任の小畑先生に話してくれた言葉です。その後、小畑先生は、できた友だちの名前を尋ねたそうです。すると、その児童は、できた友だちの一人として「校長先生」と答えたのだそうです。

吹き出してしまいそうな答えですが、私にとっては、何とも嬉しい言葉です。もちろん、私を友だちと知っていることについて、「どうなのだろう」と考える方もいらっしゃるでしょう。しかし私は、もちろんこれでいいと考えています。

実は私、子どもたちを育てていく上で重要なことに、「自尊心」と「他者意識」があると考えています。この両面をしっかりと育てていくことができれば、人として社会を生きていく基盤になると考えているのです。

上に書いた1年生のエピソードは、二つのうちの「他者意識」に関わることだと思えます。小学校生活が始まって三ヶ月が過ぎた1年生は、友だちや周りの人たちとの関わりの中で様々な経験をしたのだと思います。その中には、けんかやトラブルもあったことでしょう。しかし、それら全てを経験しながら、結果として「友だちがたくさんできたから楽しい」と言える。このことが「他者意識」の成長なのだと思います。そして、それは同級生の子供たちだけでなく、私も含めた周りの様々な人たちとの関わりから育てていくのだと思うのです。

本校は、現在人権旬間に入っています。そこで、今日の全校集会では「自分の人権と同じように周りの友だちの人権も大切」という視点で、下の左に書いた四つのことを子どもたちと約束しました。

- | | |
|---|---|
| <p>子どもたちと約束したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちの良いあいさつをしよう ・廊下を走らない ・感謝の気持ちをもとう ・トイレのスリッパを並べよう | ← |
|---|---|

- | | |
|---|---|
| <p>高木小の四つのあ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・あんぜん ・ありがとう ・あとしまつ | ← |
|---|---|

この四つの約束は、右の枠内、今年度の「学校経営の方向」に新しく位置付けた「四つのあ」から導いてきたものです。そして、そのどれもが「相手（他者）」があったり、「相手を意識」する必要があったりするものばかりです。子どもたちが、校内での基本的な生活習慣を守っていこうとする意識を高めるとともに、私が育てたいと考え、人権感覚の基盤ともなる「他者意識」を身につけてもらいたいと願い、子どもたちと約束したのです。

また、もう一つの「自尊心」を育てる面で、私の大きな仕事の一つは「子どもたちをほめること」だと考えています。直接の声かけや全体に向けての話で、職員を通して、あるいはこの学校便りやホームページで、と様々な形で子どもたちの良いところを見つけ、大げさなくらいに褒めていくことが私の大きな仕事だと捉えているのです。このことが、子どもたちの「自尊心」を育むことにつながると考えているからです。

加えて、ご家庭では、親にしか与えることができない深い愛情を、子供たちにたくさん注いでいただくことが重要であることは、言うまでもありません。

実は、上に書いた約束を子どもたちとした時に、私はここに書いたような内容を職員にもしっかりと伝えました。職員全員が思いや願いを共有し、目指す方向を揃えて、子どもたちに接することがとても大切だと思っていますからです。

もし、この学校便りを読んで、共感していただけるようでしたら、ご家庭や地域でもこのような思いや願いを共有し、ともに子供たちを育てていくことができればと、勝手ながら考えているところです。